

比出身のブレントさん 看護師国家試験に合格

希望はある!! 諦めないで!!



美濃加茂市の社会医療法人厚生会「中部脳リハビリテーション病院」で働くパラギリ・ブレント・ライアン・パウリンさん(35)が第113回看護師国家試験に合格した。フィリピン・ミンダナオ島出身で、8度目で難関を突破した。「病気だけでなく心も体もケアできる経験豊富な看護師になりたい」と正確な日本語を選びながら話した。

(三田村泰和)



看護師ユニホームのブレントさん。「妻が秘密でケーキを買ってきて合格を祝ってくれた」と喜ぶ。美濃加茂市古井町の中部脳リハビリテーション病院で

美濃加茂 8度目の挑戦で難関突破

院内での呼び名は「ブレントさん」。2009年にフィリピンで看護師となり、16年に高度医療を学ぶため看護師候補として来日し、厚生会「中部国際医療センター(旧木沢記念病院)」で働き始めた。16年から受験を重ねたが、言葉の壁は厚く、7年間不合格に。母国で公務員をしている父は長男のブレントさんを案じ「帰っておいで」と電話の向こうで泣いたという。

ブレントさんが他の国を選ばず日本に来たのはアニメを見ていたから。「一番好きだったのが『ワンピース』、次が『ナルト』。10代のころテレビでタガログ語の吹き替えで見ました」。7年間不合格で心が折れそうだったが、「私は諦めなかった。どんなアニメでも主人公は決して諦めない。ルフィ(ワンピース主人公)だって何度失敗があっても諦めない」。遠出して遊びたい心を抑え、日々6時間ほど受験勉強した。そして8度目。試験問題はこれまでで一番難しく思われ、自己採点ではボーダーラインだったが、待望の合格の報せが3月、ついに届いた。同僚の日本人看護師は「私たちの念願でもあったナースのユニホームをこれに着てもらえる」「言葉の壁があっても彼は患者さんに優しく接してくれる人」と一緒に喜んだ。

「希望、ホープ」こそブレントさんが好きな言葉。「これまでつらい気持ちもいっぱいあった。私みたいにいつも失敗している人は希望がなければ前に進めない。七転び八起き。私ができるのだからあなたもできる。諦めない気持ちを伝える人になりたい」。8年間で帰国は一度だけ。喜びの報告に妻とフィリピンに帰るのが夢だ。海外に出たことがない父母を美濃加茂に招き、職場を見てもらうのも夢だ。

厚生会は約15年前から3カ国(フィリピン、インドネシア、ペトナム)の23人の看護師候補を受け入れ、ブレントさんを含め、これまで8人が看護師試験に合格した。